



SHINKAI NEWS

日署

あけほの

発行責任者

新開昌彦後援会

福岡市早良区曙2丁目1-35
福岡県議会議員 新開 昌彦

Vol. 7 平成12年10月8日発行



県立総合射撃場内で、土壌のサンプルを採る新開 昌彦県議
調査には、藤崎充子、二宮眞盛県議、古瀬富美子筑紫野市議が参加。

県議会レポート

射撃場 新開県議、独自で 現地を徹底調査！

今回、新開 昌彦県議は、一般質問に立ちました。鉛弾の蓄積で環境被害が懸念される福岡県立総合射撃場の土壌調査を独自で実施（写真）。質問では、県教育委員会と知事の県民に対する姿勢、環境に対する認識、柚須原地区の住民の要望について、今後の射撃場の処理について具体的に厳しく追及しました。

本会議場に鉛弾を 持ち込み質問

新開県議は、射撃場の環境被害について地域住民から相談を受け、筑紫野市の森田、古瀬両市議らとともに県教委に対応を尋ねました。しかし、その後、西日本新聞の取材で、県教委は、住民に報告した水質検査の数値を「改ざん」し、水産林務部の調査で通常の八百倍もの鉛の検査値が出ていたにも関わらず、その引継を知らなかったことが発覚。

新開県議は、今回の問題の本質は、鉛の恐ろしさを知らない「無知の罪」、住民よりも組織を重視した「主客転倒の罪」として、知事と光

安教育長をたたえました。

射撃場内の鉛弾の蓄積量は、概算で百八十三トン。九月二十六日、新開県議は、確かな数値を得るために九大の地球資源システム工学の森祐行教授を訪ね、分析方法を教わり現地で土壌サンプルを採取しました。その日の夜、森教授の研究室でサンプルから鉛弾を検出しました。結果は、射撃地から百五十メートル離れたところださえ自然界の三千八百倍の鉛が埋まっていることがわかりました。

十月二日、その土壌と鉛、分析結果を議場に持込み今後の対応を追及。県教委は、住民の健康対策、水質検査、

米の検査を既に実行し、土壌検査については、早急に対応すること

を約束しました。知事は、今回のような不明朗な環境対策を起ささないように環境行政の庁内シ

ステムの改革を行うよう答弁しました。

今後も対応をチエックして参ります。



今回も、一人のご婦人の相談から活動を開始しました。行政は、県民のために何ができるかを考え、実行するサービス業である。と私は考えています。

2000年(平成12年)10月3日 火曜日

毎日新聞

独自に鉛調査 県の対応追及

射撃場問題で 新開 県議

筑紫野市の県立総合射

撃場内に大量の鉛が蓄積

している問題に関し、新

開昌彦県議(公明党・新風)

は、2日の県議会一般質

問で、射撃地点から約1

50メートル離れた敷地内のた

め池周辺の土壌についての

「土全体の5%近くが鉛

弾で占められていた」との

表、県の今後の対応を追

及した。

調査は、先月26日、

九州大学院工学研究院地

球資源システム工学部門

の森祐行教授らの協力を

新開県議は、「自然界

の土壌に含まれる384

6倍の鉛があるというこ

と。ため池は農業用水で

あり、鉛が溶出したら問

題だ」と強調し、周辺住

民の健康対策や、射撃場

休業の必要性などをただ

した。しかし県側は、「今

後抜本対策をする際、必

要に応じて臨時休業を検

討する」などと答えるに

とどめた。

2000年(平成12年)10月3日 火曜日

西日本新聞

筑紫野の射撃場

鉛、自然界の3800倍

県議が独自検査公表

福岡県立総合射撃場(筑紫野市)で環境基準値を上回る鉛が検出された問題で、同県議会会派「公明党・新風」の新開昌彦氏は二日の県議会一般質問で、会派が独自に調査した結果として、射撃場内の深さ5分の土の中から自然界の三千八百倍の鉛が検出されたことを明らかにした。

新開氏によると、九大内の土壌を採取。同研究

大学院工学研究院・資源室で分析した結果、射撃

処理工学研究室の森祐地点から約百五十

行教授から事前指導をれた地点で、土一

受け、九月二十六日に場り約五十

周辺環境への影響を指摘、県側に早急な汚染防止対策の実施を求めた。

これに対し、射撃場を

管理する県教委の光安

常喜教育長は、同デー

の評価には直接言及せ

ず、鉛は長期的に摂取し

た場合、消化器障害など

人体に影響がある」とし

て、早急に土壌検査を行

う考えを示した。

同射撃場では、昨年二

月の同県の調査で、自然

界の八百〜五百倍の鉛

を検出している。

2000年(平成12年)10月4日 水曜日

公明新聞

二日の福岡県議会で一般質問に

立った公明党の新開昌彦議員は、

県立総合射撃場の鉛の問題を質

問。自らの現地調査、専門家に依

頼した同射撃場の土壌の分析を示

し、「市民の生命に関わる重大問

題。鉛が人体にどのような害を及

ぼすかを知らない、無責任な体質

のあらわれ」と県教委の対応を厳

しく追及し、「射撃場を一時休業

し抜本対策を練るべきだ」と迫っ

た。光安常喜教育長は、「抜本的

に、この施設を検討していく」と

答えた。同射撃場内の土壌から自

然界の八百倍にもあたる鉛が検出

されたのは、昨年二月、ところが

県教委は、昨年九月、定期水質検

査で環境基準値(一リットル中0.0一

マイクログラム)の四倍もの鉛を検出して

いた。にもかかわらず、基準値以下の数

値にすり替えて地元住民に報告し

ていた。

事態を重く見た新開県議は、先

月二十六日、現地を調査し、採取

した土壌分析を九州大学の森祐行

教授に依頼したところ、換算して

約一マイクログラムの土壌の中から五十

鉛が検出された。